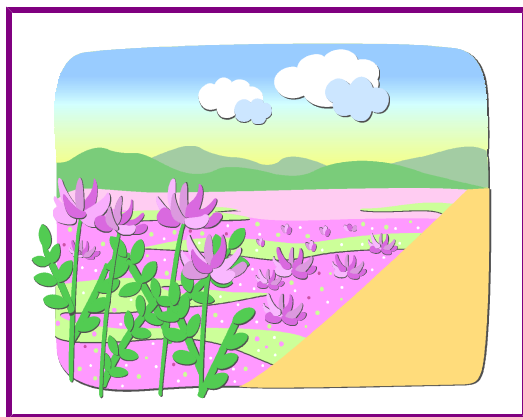


めぐみイエス・キリスト教会

2020年4月26日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第504号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年4月26日 第四主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌112「カルバリ山の十字架」 p. 158

【交読文】 No.54 ヨハネの福音書14章 p. 922

【賛美Ⅱ】 新聖歌128「イースターの朝には」 p. 180

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書21章1節～14節(新約p. 205下段)

【聖書研究】 《ガリラヤにおいて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 165

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書21章1節～14節

21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子が一緒にいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちも一緒に行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

21:7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまどって、湖に飛び込んだ。

21:8 しかし、他の弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。

21:9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。

21:10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」

21:11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。

21:13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。

◎聖書研究と分かち合い

①使徒たちは、なぜガリラヤに行ったのか。またガリラヤのどこに行ったのか。(マタイ28:7 新約p.57)および(マタイ8:14 新約p.12)

②ペテロに取って大漁の経験は何回目か。(ルカ5:1～9 新約p.106)

③12節「さあ来て、朝の食事をしなさい。」

主は、弟子たちの朝食を用意しておられた。大漁の経験とこの食事から、主は私たちに何を教えておられるのか。(マタイ6:31～34 新約p.10)

◎先週のメッセージの概要「主イエスの復活から一週間後」

《主イエス様は、よみがえられたその日の夕方、ユダヤ人を恐れてカギがか
けられていた部屋に潜んでいた十二弟子たちの所に、突然現われました。

その時、十二使徒の一人で、デドモ(双子)と呼ばれたトマスは、その場に
いませんでした。トマスがなぜいなかったのか、聖書には書かれてはいませ
んが、この事は、神様の深い摂理の中に行なわれたことだと信じています。

さて、当然トマスは、いじけてしまいます。

「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手を
そのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」

その一週間後のことです。一週間前とほぼ同じ時間に、同じような状況の
中、彼らが夕食を囲んでいると、主イエス様は現われて下さいました。

「トマス。あなたの指をここに付けて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の
わきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

「私の主。私の神。」

「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

いかに主は、ご自身が選ばれた使徒たちを愛しておられたかが分かります。

トマスは疑い深い性格であると、今まで思われて来ましたが、やはり自分の
目で生きておられる主イエス様の姿を見、自分の耳で主の声を聞き、自分の
手で主に触れなければ、信じる事が出来ないのが人間です。では、この出来
事は何を意味しているのでしょうか。主は一人の人格さえも、決してないがし
ろにはなさらないと言うことです。そして次の主の言葉を後世に残す為です。

「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

「見ずに信じる者」とは、誰のことを指すのでしょうか。

「私は彼らにあなたのみ言葉を与えました。私は、ただこの人々の為だけで
なく、彼らの言葉によって私を信じる人々の為にもお願いします。」

つまり、使徒たちを通して語られる主のみ言葉を信じる者を指しています。
要するに、今現在の私たちなのです。私たちは、まことに「幸い」なのです。》

◎お知らせ

※主日礼拝は、5月3日(日)・10日および17日までは、各家庭にて行ない
ます。また聖書の学びと祈り会も、4月29日(水)および5月6日・13日・20日
までは、各家庭にて行ないます。その後はコロナの状況しだいです。